

関西インカレ 男子12連覇 女子11連覇



9年ぶり地元開催

最高超の活躍を

水上競技

沸かせる!!

田積

男子出場選手一覧		
名前	学部・学年	出場種目
高木陸	経営4	400 ㎫自由形・1500 ㎫自由形
菅野広大	経営4	200 ㎫個人メドレー
三宅暉輝	経営4	100 ㎫バタフライ
安江有貴	経営4	200 ㎫自由形
大蔵礼生	経営4	100 ㎫平泳ぎ
神園航平	経営4	100 ㎫平泳ぎ・200 ㎫平泳ぎ
重藤流世	経営4	50 ㎫自由形・100 ㎫自由形
劉政頻	経営3	200 ㎫自由形・400 ㎫自由形
北本悠介	経営3	200 ㎫個人メドレー
小東真皓	経営3	100 ㎫背泳ぎ・200 ㎫背泳ぎ
佐藤佑亮	経営3	100 ㎫背泳ぎ・200 ㎫背泳ぎ
森本耕太	経営3	400 ㎫自由形・1500 ㎫自由形
山口唯航	経営3	200 ㎫平泳ぎ・400 ㎫個人メドレー
山本琉	経営3	100 ㎫バタフライ・200 ㎫バタフライ
金谷駿	経営3	400 ㎫個人メドレー
藤井陽太	経営3	100 ㎫背泳ぎ
木村瞬弥	経営3	200 ㎫平泳ぎ・400 ㎫個人メドレー
宮田一佐	情報3	100 ㎫自由形・200 ㎫自由形
花澤柊太	経営2	1500 ㎫自由形
大字根和寿	経営2	100 ㎫バタフライ・200 ㎫バタフライ
後藤晃太	経営2	200 ㎫バタフライ
木佐木煌希	経営2	100 ㎫平泳ぎ
松田康平	経営2	50 ㎫自由形・100 ㎫自由形
泉陽一	経営2	200 ㎫背泳ぎ・200 ㎫個人メドレー
杉利音	経営1	50 ㎫自由形

女子出場選手一覧		
名前	学部・学年	出場種目
田積帆乃果	経営4	200 ㎫平泳ぎ・400 ㎫個人メドレー
芝咲菜	経営4	100 ㎫背泳ぎ・200 ㎫背泳ぎ
梅山陽向	経営4	50 ㎫自由形
谷口涼菜	経営4	100 ㎫自由形・200 ㎫自由形
鍵本彩夏	経営4	100 ㎫平泳ぎ・200 ㎫平泳ぎ
奥田文嘉	経営3	100 ㎫バタフライ・200 ㎫バタフライ
大嶋千桜	経営3	100 ㎫自由形・100 ㎫バタフライ
小野春花	経営3	200 ㎫個人メドレー・400 ㎫個人メドレー
川原愛菜	経済3	200 ㎫自由形
菅七海	経営2	100 ㎫背泳ぎ・200 ㎫背泳ぎ
宮崎若葉	経営1	200 ㎫個人メドレー・400 ㎫個人メドレー
伊藤帆乃	経営1	200 ㎫バタフライ
洲上真奈	経営1	100 ㎫背泳ぎ・200 ㎫背泳ぎ

ワンプア中の水上競技部

今年掲げたスローガンは、「最高超」。過去最高順位であるインカレ総合2位を超えること。そして結果だけではなく、インカレを終えたときに「最高超」には、そんな思いが込められている。高木は今年のチームについて「個々の色がすごく強い」と話す。インカレに懸ける思いも一人ひとり異なり、ぶつかることもあったという。それでも高木は「その力を試合に向けて」と語る。個人競技でありながらチームとして戦う意識を持ち、1年間活動してきた。その積み重ねが今年の近大を支える力となっていた。その一体感を象徴していたのが、関西学生選手権だ。男子が安定した戦いを見せる一方、女子は2日目終了時点で総合2位。連覇が危ぶまれる状況の中、女子主将の田積帆乃果(経営4)はチームのLINEグループに「絶対勝つよ」とメッセージを送った。すると後輩や同期からも「勝つぞ」と返事が届いたという。「みんながやる気になってくれた。最終日に逆転で勝ててよかった。苦しい状況でも気持ちを高め合い、逆転で11連覇をつかみ取った。」



3人で決勝へ

関西を制した3人が、今度は全国の舞台へ挑む。男子1500 ㎫自由形に出場する高木は、インカレでしか返らない。森本耕太(経営3)は、今年掲げる目標は自身のリベンジだけではない。「この3人でインカレの決勝に残りたい」。男子主将と見せつけた。今年は地元・大阪で開催されるインカレ。中でも高木にとって、1500 ㎫自由形は、長い距離を泳ぎ切る持久力と、最後まで粘り抜く精神力が問われる種目だ。5位入賞を期待された一昨年、決勝を逃した昨年は、決勝のスタート台に立つ姿を見られるか。

9年ぶりに地元・大阪で開催される今年のインカレは、近大にとって特別な意味を持つ。昨年のインカレのレース後、男子主将の高木陸(経営4)は「来年は大阪開催なので、地元の思いも背負って、この1年間はインカレに向けてがんばっていききたい」と語っていた。その言葉通り、この1年間の取材でも、部員から大阪でのインカレに懸ける思いが何度か聞かれた。チーム一丸

100 ㎫平泳ぎで3連覇を狙う大蔵礼生(経営4)や、6月の日本選手権で自己ベストを更新し2位に入った重藤流世(経営4)など実力者も多い。大学ラストイヤーの4年生にとって、インカレは集大成の舞台となる。地元開催のインカレだからこそ応援を力に変え、普段以上の力を引き出せるはずだ。これまで支えてくれた人への感謝、仲間への思い、そして大阪開催に懸けてきた1年間。その全てを4日間のレースにぶつける。【鹿間透子】

状況の中、女子主将の田積帆乃果(経営4)はチームのLINEグループに「絶対勝つよ」とメッセージを送った。すると後輩や同期からも「勝つぞ」と返事が届いたという。「みんながやる気になってくれた。最終日に逆転で勝ててよかった。苦しい状況でも気持ちを高め合い、逆転で11連覇をつかみ取った。」

山口唯航(経営3)、木村瞬弥(経営3)の2人にも注目が集まる。ともに400 ㎫個人メドレーと200 ㎫平泳ぎに出場する。同じ高校出身で、これまで切磋琢磨してきたライバルだ。6月の日本選手権では、山口が400 ㎫個人メドレー決勝で自己ベストを更新。得意の平泳ぎで順位を上げ、「やっと競がやぶれた」と手応えを語った。木村も200 ㎫平泳ぎで「気楽に挑めた」と振り返り、初の日本選手権でのメダル獲得を喜んだ。関西学生選手権では、両種目で山口が優勝。互いに2冠を目標に掲げる中、インカレではどのような結果を残すか。同学年コンビのレースから目が離せない。

2冠狙う 山口・木村

